

# 一般質問

# 市民の声を代表して 19人が質問

議会には、議員が、市長などに対し、市の仕事の状況や将来の方針などを質問する一般質問があります。  
今回の定例会には、19人の議員が、皆さんの声を代表して熱弁を振りました。  
また、希望する議員は1問ずつ質問をして、その都度、答弁を受け、一問一答制による一般質問を試行しています。

## 地域再生の見取図

平 由子 議員

昔の家族ルール崩壊、社会を支えるルールが必要。今、社会を支えるNPO法人。鳩山前首相は支払う税金の一部を各自が好きなところに寄付できるという制度の話をした。住民が必要と感じるところに寄付。民意。街の夢。人が立ち寄れる場、排除されない場。生活に根差した視点。個店が競い合うのみならず商店街対商店街でも。人々のニーズを吸い上げ。ネットの普及、個人団体の情報発信。世界と繋がる。地域の重要性も増す。知識産業化を。雇用創出を。既存製造業の知識集約化を。

ことだが、身近で買えるものは身近なところで買いたい。地域のコミュニティを守っていくことも大切。研究していきたい。財政運営は、自立的にしっかり取り組んでいく気が構えが、なお一層必要と考えている。

## 人もペットも同じ命

阿部 洋子 議員

同じ命を持つ動物の中でも、ペットとして人間に飼われ、何らかの理由で捨てられ、年間約19万頭の猫と約8万頭の犬が殺処分されている。殺処分を減らすために、市のホームページに飼い主募集のページ開設や保護・譲渡している市内のNPO団体へのリンク、子ども用のページで命の大切さを教えることを求める。



まちづくり振興部長 市では、県動物指導センターのホームページへのリンクを張っている。使にくいこともあるので、改善を検討。

問 TNR活動や東京都新宿区では、飼い主のいない猫を、地域住民・ボランティア・行政一体となって管理する地域猫活動を行っている。これは、去勢不妊手術や決まったルールで餌をあげたり、トイレの設置でふん・尿の被害減少などに効果がある。推進を求めたい。

答 研究をしていきたい。

## ウエルネス・タウン 取手とは？

金澤 克仁 議員

取手駅北土地利用構想再立案について、ウエルネス・タウン取手の創造を目標に掲げたが、その背景と具体的なまちづくりを伺う。

また、国土利用計画と都市計画マスタープランとの整合性と過去の「芸術の杜」構想との政策面の違い、タイムスケジューリングは、都市整備部長 少子高齢化への対応で、中心市街地をハブ機能として構え、駅周辺地区に公共施設のサテライト機能や情報発信機能を置くことにより、役割が明確になると考える。

土地利用構想再立案は、二つの計画との整合性を十

## 推進を！家読

齋藤 久代 議員

分には、持続可能な中心市街地の実現に取り組んでいる。「芸術の杜」との違いは、計画策定を関係者が参加した策定委員会で行い、市民の意見を求めている点。

早く権利者の合意を得て、事業を進めていきたい。

問 読書は、言葉の力、考える力、思い浮かべる力をはぐくむのに有効と考える。読書をより推進するため、子ども司書を提案する。

教育部長 子どもの読書活動推進計画の中で、どういうことができるか検討。

問 小学校の図書委員を展覧させて取り組めないか。

答 肯定的に考えたい。

問 取手市でも家読の推進を図ってもらいたい。

答 読書活動推進計画の中に盛り込んで、なるべくできるように検討したい。

問 メディアに触れる時間をコントロールし、心と体を成長させる環境づくりを指導すべき。ノーメディアデイの取り組みを伺う。

答 行政が一方的に話をして浸透しない。情報提供しながら、そういった気運がPTAなどの中で盛り上がる方向の中で考えたい。

※ TNR…「T」はトラップ(捕獲器)で野良猫を捕獲。「N」はニューター(不妊手術)。「R」はリターン(元の生活場所に戻す)。